


一般質問通告書

【第64回定例会】

多可町議会議長 河崎 一 様
 多可町議会議員  

受 領 日	番 号
平成27年6月12日 午前・午後11時34分	//

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. まち・ひと・しごと創生本部の 議論の進捗について	町 長
別紙	
2.	
3.	

質 問 の 内 容

A・「地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保」の為には当然「住まい」の確保も重要だと思うが、

- ①「住まい」の確保についての考え方は？
- ②現在居住可能で「空き家」となっている家屋を町の責任で提供できるような体制（つまり倉庫代わりに使っている家屋を賃貸等に提供してもらえるように家主を説得する担当者の配置）をとるべきではないか。
- ③空き家等を「売却」「賃貸」として再活用するためのインセンティブとしての策として家賃補助は有効だと考えるが導入すべきでは。
また、今年度で、リフォーム助成に加え、中古住宅購入補助、木造住宅新築助成がいずれも終了するが、引き続き必要であると考えているがどうか？

B・「地域における魅力ある多様な就業の機会の創出」という表題が掲げられているので、何か「新しい」ことをしなければならないとの思いが強くなっていませんか？

しかし、大切なのは「就業の機会の創出」ではないかと思います。

多可町は、「敬老の日発祥の町」ですから世界中のどこよりもお年寄りを敬い、安心して住み続けられる町を目指すべきではないかと考えますし、そのことは、雇用を生み出すと考えます。

（高齢者の医療や介護を担うのは「人」であり医療や介護を充実させることは「雇用」を生み出します。また介護は約7割は人件費）

- ①24時間介護を町の責任で始めてはどうか。
- ②空き施設をサービス付き高齢者介護住宅として整備してはどうか。
- ③その他医療や介護での雇用創出についてどのように考えているか？

また、一過性のものや補助金頼りや地域の資源を使わない新規事業では、地域再生につながらないと考えます。

- ④例えば、ドイツの人口減少に悩んでいたユーンデ村では、大学と組んでバイオガスのコージェネレーション（自家発電）＋木質ボイラー（温水供給）を始めたところ、CO2削減やエネルギーの自給自足だけでなく、新しい雇用（酪農・農業・林業・運送業！）を生むことにも成功し、村に年間約1億円の収入が生まれ、温水供給を受けた村民も平均して毎年約10万円も暖房用石油代を節約できたとの事。

町はこの度、下水道施設の統合を計画しているが、その結果一施設あたりに流入する汚水の量は増える。

そこで、この汚水からメタンガスを取り出したらどうかと考えるがいかがか？